

2025年4月3日

2025年度 町田市立小山小学校 学校経営方針

町田市立小山小学校
校長 三瓶 昌信

I 学校経営の基本理念

「活気ある学校」～目指す学校像 目指す教師像

1873年（明治6年）開校した本校は、今年度152年となる。町田市で最も歴史ある学校の1つである。その間、多くの諸先輩の教職員の努力と地域の方々との協力によって、よき伝統、よき校風が築かれてきたと考える。そして本校は、地域に根ざした教育を展開し、多くの卒業生を送り出してきた。その地域が学校に寄せる期待は極めて大きいと受け止めている。

この期待に応えるために、小山小の伝統を守り、新しい時代の教育的要請にも応えながら、「活気ある学校づくり」を目指して、「Team 小山」全員の力を合わせ、進んでいきたい。

「活気ある学校」は、子供にとっても、教職員にとっても、保護者や地域の方々にとっても共通した願いである。「活気ある学校」では、子供が生き生きとした学校生活を送る、教職員が燃え、子供の個性を伸ばし、よさを発揮させる。ここの小山小の保護者や地域の方々の期待に応え、信頼を得る学校づくりができるものと確信する。そのために、子供一人一人を大切にし、人間尊重の精神を基調とする小山小としたい。

1 子供にとって「活気ある学校」

子供は「勉強が分かりたい」「友達と楽しく過ごしたい」「先生に認めてもらいたい」「みんなの役に立ちたい」等、様々な願いをもって毎日登校する。この願いが教職員の愛と指導によって成就されたとき、子供は「活気ある学校生活」を送ることができる。そのために、常に子供の側に立ち、子供の身になって考え、悩み、喜びを分かち合える教職員でありたい。

子供の成長は早く、今日の子供は、昨日の子供ではない、一人一人に違いがあり、無限の可能性を秘めている。そして心の奥底に美しく伸びようとする芽をもっている。その芽を大事に育てることは教職員の責務である。そのことを心に刻み、可能性を信じて教育を続けたい。

子供にとって、生き生きとした楽しい「活気ある学校」生活が送れるために、全教職員の協力・協働の心を大切にしたい。

2 教職員にとって「活気ある学校」

子供たちが生き生きとした楽しい「活気ある学校」生活を送るためには、まず、私たち教職員が「活気ある学校づくり」をすることが大切である。活気ある学校では、職場に笑いがあり、笑顔に満ちている。自由に発言ができ、ユーモアがある。意見は、建設的で節度がある。しかし、他の一面では、厳しい自己反省があり、相互の磨き合い高め合いがある。これらは、真に楽しい職場の重要な要素であると考え。そして、その源泉は、人間的な温かさや思いやりの心である。

「Team 小山」はそれぞれ職務・職責の違いこそあれ、一人一人が小山小の子供の幸せを築く価値ある仕事を担っている。互いが、それぞれの役割を理解し、仕事がしやすいように協力し合って、生きがいをもって働ける職場づくりをしたい。

しかし、私たちは互いに生身の人間である。健康上の問題、家庭での様々な問題、あるいは仕事上の問題等を抱えることがある。そのようなとき、思いやりやいたわりの心で支え合い、助け合い、励まし合っていきたい（支え愛、助け愛、励まし愛）。そこに、教職員の輪が生まれ、信頼が育つ。このような教職員の姿は、子供の対する大きな教育力となり、生き生きとした楽しい「活気ある学校」づくりの源になると考える。

3 保護者・地域にとって「活気ある学校」

保護者は、我が子の健やかな成長を切に願う。だからこそ、子供の教育については様々な願いや悩みが学校に寄せられる。この願いや悩みに対して、まず、素直に聞く耳をもちたい。そして、保護者の願いや悩みを共に解決する中で、正しい教育の在り方を気づかせていきたい。保護者は、少しでもいい子になるように、わからないことが分かるように、できないことができるようにしてほしい一念で子供を学校に通わせているのである。

地域の方々は、この小山小に深い愛着があり、学校との協力関係の中で、子供たちの健全育成を願い、学校への協力を惜しまない。

このような保護者や地域の学校に対する期待や願いをくみとり、保護者や地域と共に歩む教職員の姿勢が信頼を深め、保護者・地域にとって「活気ある学校」となるのである。

以上の3点を常に意識してそれぞれの職務に当たってもらいたい。

II 小山小学校の教育目標～目指す児童像（教育課程 第1表）

日本国憲法及び教育基本法の基本理念に基づき、東京都教育ビジョン、町田市教育プラン 24-28 を踏まえ、児童が知性、感性、道徳心や体力をはぐくみ、人間性豊かに成長することを目指し、次の教育目標を掲げる。

- ・考える子（自らすすんで学び、課題に対して主体的に取り組む子ども 課題解決力）
- ・挑戦する子（心身ともに鍛え、仲間と力を合わせ、意欲的に行動する子ども 実践力）
- ・感謝する子（自分を大切にし、仲間を大切にし、互いを認め高め合う子ども 人間関係形成力）

III 基本方針（学校経営計画・学校評価）

【社会に開かれた教育課程の実現】

○目指す学校及び子供の姿を家庭や地域社会と共有・連携した教育課程を実現する。

1 家庭・地域との連携を強化し、「地域協働学校」を確立する。

（1）VC と連携し、ゲストティーチャーや地域ボランティアを積極的に活用し、「小山学習」を展開する。

（2）コミュニティスクールを通じて、本校の教育活動を周知し、意見交換を行う。

2 積極的な情報発信と公開を通して、教育活動への理解を求める。

（1）学校だより、ホームページの更新で保護者が安心できる情報を発信する。

（2）学校評価・行事アンケートの回収率を上げる。

【確かな学力を身に付ける】

○授業改善を進め、基礎的・基本的な知識及び技能の確実な習得と思考力、判断力、表現力等の育成と共に、主題的・対話的で深い学びを実現する。

1 授業をデザインする8つの取組を踏まえ、子供が「わかる。できる。つくる、楽しい授業」を展開する。

（1）「見通しをもたせる導入」「ICT 機器の活用」「価値ある対話の共有」「振り返りの設定の4つに特化して取り組み、授業改善を図る。

（2）ICT 機器を活用した授業を実施する。（プロジェクター、タブレット、デジタル教科書）

2 学習への興味・関心を高め、主体的に「学び続ける」子供を育てる。

(1) 既習事項を活用した問題解決型、探求型の学習を展開する。

(2) 宿題や家庭学習に積極的に取り組む。

【未来を見据えた特色ある学びを推進する】

○将来ある子供の育成という意識をもち、町田市公立小学校として市の掲げる施策に沿って特色ある教育の推進に努める。

1 ICTを活用した学びの充実

(1) 毎日全時間ICTを活用する意識をもつ。「どの教科、どの単元、どの活動で紙と鉛筆が有効なのか」2, 3年後の授業をイメージして教材研究を進める。

(2) ドリルソフト「Qubena」を家庭学習にも毎日活用する。

2 キャリア教育の推進

(1) 企業の出前授業、保護者や地域の方々の協力を得て、全学年でキャリア教育を充実させ、将来の夢や目標に対する興味、関心を高める。

3 えいごのまちだの推進

(1) イングリッシュフェスタを実施する。

【生涯を通じて健やかに過ごせる体を育成する】

○正しい生活習慣を身に付けさせ、丈夫な体とたくましい心を育てるとともに、自助・共助・公助の力を身に付ける安全指導・安全教育を充実する。

1 運動の日常化と健康教育及び食育の充実を図り、基礎体力の向上を図る。

(1) 体育科の授業の充実を図ると共に、外遊びを奨励し、運動の日常化を図る。

(2) 家庭と連携し、健康教育・食育を推進する。(早寝、早起き、朝ご飯)

2 安全な環境を整備し、自己・他者の命や心身を守る力を育成するための学校体制を徹底する。

(1) 遊びのルール、廊下・階段の歩行など「生活のやくそく」を守って生活する。

(2) 教職員の共通理解を図ると共に、専門機関とも連携を図り、チーム支援力を高め、指導の充実を図る。

【他人への理解、豊かな心、思いやりを育む】

○多様性を尊重し、自分と共に他者を大切にする意識・意欲・態度を育てる。

1 生命を大切にする心や他人を思いやる心、規範意識等を育む。

(1) 人権を相互に尊重する態度を育て、いじめを絶対に見逃さない生活指導をする。

(2) 「特別の教科 道徳」の授業では、道徳的価値に基づく自己の振り返りの時間を設置し道徳的実践力を育てる。

2 児童の自己有用感を高め、人との関わりを通して自分も友達も大切のできる態度を養う。

(1) 委員会、クラブ、各種実行委員会、係活動などにおいて、子供の主体的な活動を重視する。

(2) 読書活動を推進する。学校図書館貸出冊数 35000 冊 電子図書館も積極的に活用する。

IV 具体的な取り組み

本校の今年度の教育課程に関しては既に昨年度末に市教委に受理されている。その第1表、第2表は必ず目を通すこと（教育計画参照）

1 学校運営

- 「働き方改革」の推進…働き方改革とは何か、正しい理解をしましょう！
教職員が楽をするための改革ではない。
児童に向き合う時間の確保、授業のための教材研究のための時間の確保のため
- **組織の活性化**…会議の削減（C4thの活用）、分掌部会の充実
個々の意識向上が必要である。初任者だろうとベテランであろうと、臨時任用であろうと、みな組織の一員で「学校運営」に携わっているという意識が大切である。
必要最低限の会議で、効率化を図る。そのためには、分掌の主任は事前に協議事項を伝え、学年等の意見を持ち寄らせる。
- 「ほう・れん・そう」の徹底…抱え込まない。責任の所在、管理職に相談したら、そこから先の責任は管理職に！
- 「TEAM 小山」教職員全員で全児童を育む。「隙間は自分が」という意識
- 「KAIZEN」を常に意識して。「例年通り」なんてあり得ない！
改善できることは今日から改善する！来年度から、来学期からなんてあり得ない！
「異動者」はそのキーマンである。ただし、「前の学校は…」ばかりではダメ
変化、改善を楽しむ！
教育界、教員…変化、改善、改革を嫌う ハンコがどうっていう時代ではない！
少しでも心に引っかかったら声を出す
その学校に1年もいると、これが当たり前だと思ってしまう…ダメ！
- 教育公務員としての自覚（法によって縛られているが、法によって守られている）
- 起案は計画的に行うこと。「今日出したい」「明日出したい」は避けること。学級だより等の学校からの通知文には、必ず校長名も明記する。（責任は校長）
学級だよりは主幹の確認で発行も可とする。
- 校長に言ってみる、聞いてみるが確かに早いかもしれないが、ちょっと面倒でも組織を意識して動きましょう。
「校長、これどうしたらいいですか？」って聞きに来ないで。（ごめんなさい、答えてしまうので。） ⇒ 「校長がこう言っていた」はダメ！
「自分はどうしたいのか？」「分掌で相談する」「主任に相談する」「主幹に相談する」「分掌ではこうしたい！」という思いを校長に伝えてください。
分掌でも、学年でも「どうしましょう？」はやめましょう。「～したい！」という意見、考えをもって行動しましょう。
- 運営のキーマンは「学年主任」「分掌主任・委員長」である。
どんな些細なことでも共有しましょう。

2 学習指導

- **教員の本務**である。常に学び続けなければならない。授業の下手な教員はいらない。
- 児童が「主体的・対話的で深い学び」に向かう学習指導の工夫を図り、授業をデザインする8つの取組を踏まえた授業改善に取り組む。
特に「見通しをもたせる導入」「ICT機器の活用」「価値ある対話の共有」「振り返りの設定」の4つは必ず行う。
教師は教えない、しゃべらない！！授業の動画を撮ると、よくわかる。
- 「**ICT機器の積極的活用・これからの授業の創造**」…どんどん活用し、全体にフィードバック
共通の財産とする 毎日・毎時間活用する意識 家庭学習の充実

「Machida Next Education」の推進

※2～3年の授業を意識して。

「どの教科の、どの単元、どの場面で紙と鉛筆が必要な？効果的かな？」

4、5人の児童が手を挙げて発言した…活発な授業だった、そんな時代ではない！

旧ジャムボードやスプレッドシート…より多くの児童の意見があり、交流できる

「使ってみないと、いいのか悪いのかも分からない！まずは使ってみましょう」

大切なのは児童が使うこと。担任が使えなくても構わない。だから、学年でやる、組織でやる。

できる人、あなたがやらないでだれがやる？「自分だけはできます」なんて教員はいらない！

(なぜ、自分のクラスだけがやるの？)

- 「Qubena」(キュービナ)…どんどん活用し、その機能を共有しましょう
とことん活用して、金額以上の価値を見いだす
2400円の高額教材(活用次第で高くなるか、安くなるか?)
必ず活用を！授業も家庭学習も
- 学校図書館貸出総数35000冊 一人約50冊
「電子図書館」の活用(これはどう進めるか、教えてください)
- VCと連携した出前授業の充実
無料の出前授業は申し込みます。
 - 5年、読売巨人軍支援教室(5月20, 21日)
 - 6年、文化庁舞台芸術支援事業(大蔵流狂言 11月7, 14日)有料の出前授業も相談してください。児童一人当たり500円ならやく50000円の活動が可能(教材費に計上) 例：出前プラネタリウム
オリンピック 関根花観さん(キャリア教育、走り方教室)
パラリンピアン 鹿沼由理恵さん(キャリア教育、特別支援教育)

3 生活指導

- 「小山スタンダード」に基づき、教職員全員が共通理解し、同じ方針で児童を指導していく。
- いじめ、暴力行為等の問題行動の根絶、不登校の解消に向け、教職員全員が迅速に一体となって対応する。いじめ対策対応チーム、校内委員会、LM、学年会等での定期的な情報交換を行う。
- カウンセラーとの連携を図る。
- 年3回以上、いじめの関する道徳授業を実施する。

4 特別活動

- 学級活動において、話し合い活動の充実を図る。互いに認め合い、所属意識の育成を図る。
- 係活動や委員会活動、異学年交流において、「誰かのために」「学校のために」という思いを育み、自己有用感や自己肯定感の伸長を図る。

5 特別支援教育

- 「町田市特別支援教育ハンドブック」をもとに、教職員全員が共通して、合理的配慮に基づいた指導を行う。
- 「さくらぐみ」との交流(学習、学校行事等)を通し、共に助け合い、支えあって生きていくことの大切さを学ばせる。(町田の丘学園との交流、副籍交流?)
交流について…交流の時に「さくらの子が来た」ではなく、「クラスメートの〇〇さんが戻ってきた、おかえり！」で迎えさせる。交流の時間は担任も自分のクラスの子という意識で迎え、

接すること。

- ・特別支援教室（サポートルーム）における指導の充実を目指し、巡回指導教員等と連携し、集団適用能力等の伸長を図る。
- ・ユニバーサルデザインに基づいた指導を行う。

6 研究・研修

- ・町田市教育委員会研究指定校 研究課題「学び続ける力」の向上 （2年間）

- ・会議を削減している時間は研究、研修のための時間である。
- ・「学び続ける教師」「学びあう教育集団」を常に意識し、指導力向上のため研究、研修に励む。
- ・年間5回以上、教員相互の授業参観を行う。管理職による授業観察は校内公開授業とする。授業後は必ず情報交換をしましょう。授業を見ていただく、見せていただくという意識を忘れずに！
- ・小教研、その他の外部の研究会、研究発表会に積極的に参加し、自己研鑽に励む。そこで得た情報を校内で共有する。
- ・OJTは定例＋日常で実施する。
- ・放課後はできるだけ職員室を職務遂行の場として、学習指導だけでなく、教育者として社会人として日常的に互いの学びの場となるように努める。職員室での子供たちの話、授業の話が増えるといいですね。
- ・若手の皆さんへ…先輩が校庭でラインを引いていたら手伝いに行きましょう。先輩が廊下で作品や掲示物を貼っていたら、手伝いに行きましょう。そしてそこでたくさんおしゃべりしましょう。それが研修です。各教室をのぞいてどんな掲示物があるのか学びましょう。掲示物のコメント読みましょう。（あまり強要するとハラスメントですね）